

STEPS in OSAKA でできること



【児童生徒】

◎各領域・各段階の問題を解き、自分で解答状況を確認できる

→ 大阪版 CAN-DO リストと照らし合わせながら児童生徒が自分で学習を進めていくことを想定しています
解答した内容について、ふり返りをすることもできます（下図参照）

◎音声の吹き込み、再生が可能（ヘッドセット等があると便利です）

→ 何度も録音し、自分で聴き直すことができます（最後に録音したものが記録されます）

【教職員】

◎児童生徒の取組み状況や解答内容について確認できる（確認方法は、使用する学習 e- ポータルによって異なります）

話すこと（やりとり）STEP5① 設問1
あなたの家がどこを指しているかを外国人観光客に説明してください。

ネイティブスピーカーの音声で出題される！

（録音）

- 下の録音ボタン をクリックまたはタップして話しましょう。
- 話している間、録音ボタンの上のバーが右にのびて行きます。
- 一番右に届くと録音が終わるので、それまでに話し終わらしましょう。
- 話し終わったら、停止ボタン をクリックまたはタップして、録音を終えましょう。

自分で録音した音声をその場で再生して確認できる！

話すこと（やりとり）STEP5① 設問1
下の設問とその音声とあなたの解答や録音した音声を比べて、ふり返りからあて

解答

解答音声

Yes. Just go straight on this street and turn right at the bookstore. The convenience store is next to it.

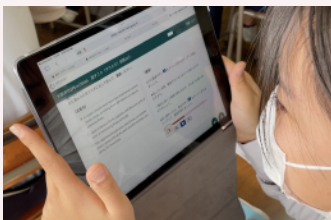
ふり返り

◎ Yes. Just go straight on this street and turn right at the bookstore. The convenience store is next to it.を選び、正しく読めた。

◎ Yes. Just go straight on this street and turn right at the bookstore. The convenience store is next to it.を選んだが、解答の音声とは異なる読みがあった。

ネイティブスピーカーの音声で解答を確認でき、ふり返ることができる！

STEPS in OSAKA の開発にあたっては、STEPS 開発 WG メンバーとして、府内の小・中・高等学校教員等 27 名と指導主事 2 名にご協力いただきました。先行して STEPS in OSAKA プロトタイプ版を WG メンバー所属校で活用しました。



▲授業で生徒がタブレットに向かって解答を吹き込んでいる様子

実際に活用してみた WGメンバーより

- ◎生徒が自分のペースで問題に取り組むことができていた。
- ◎それぞれの問題に目的や場面、状況が詳細に設定されていたため、子どもたちが楽しそうに取り組んでいた姿が印象的だった。
- ◎これまでの学習内容を統合的に復習するために、効果的に活用できるのではないかと感じた。
- ◎生徒にとって身近な教材になりそうだなと感じた。
- ◎授業の帯活動や、家庭学習でも予習や復習として取り組むことができそう。



YES, I CAN!



大阪版CAN-DOリストの特長について

- ◎ CEFR-J※ (PreA1 ~ B2.2 の 10 段階) に準拠している
- ◎ 小・中・高を通じた 4 技能 5 領域の総合的な向上をめざす英語力の指標である
- ◎ 学年や校種にとらわれず、自分の取り組みたいレベルからチャレンジできる
- ◎ 各ディスクリプタに対応するタスク例が示されている
→ コミュニケーションを行う「目的や場面、状況」を意識したタスクを設定

子どもたちが大阪版 CAN-DO リストを見ながら、STEPS 問題に取り組む、「何ができるようになるか」を意識して学習できます



※CEFR-Jは欧州共通言語参照枠（CEFR）をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標です。（詳細は右の二次元コードよりご確認ください）